

# 津ライスニュース 令和3年産 第3報

令和3年7月2日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

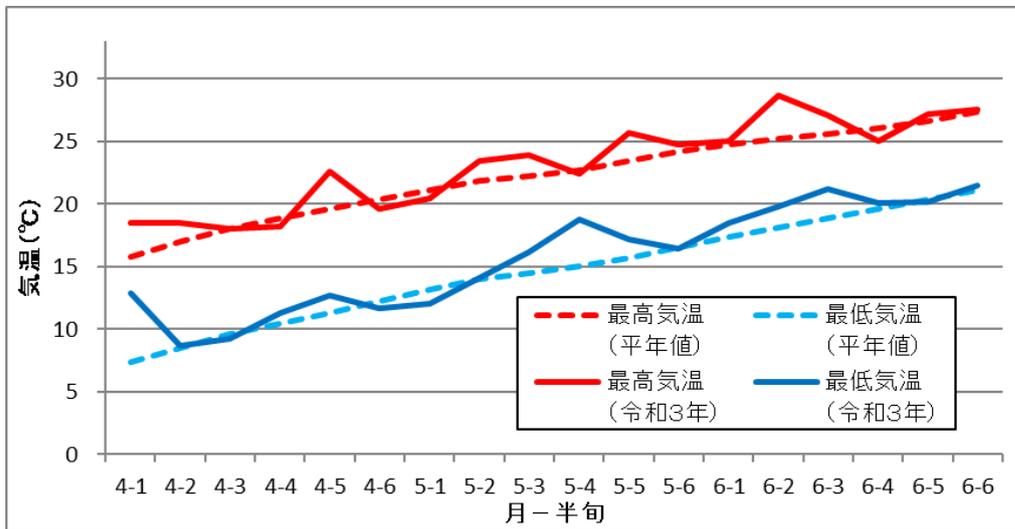
不順な天候が続いています。水管理、病害虫防除などの栽培管理を徹底しましょう。

梅雨入りが5月16日と非常に早く、今後もしばらく梅雨の天気が続きそうです。また、梅雨明け後は猛暑となることが多く、米の品質への影響が懸念されます。幼穂形成期以降の水管理については、水を張りっぱなしにせず、間断かん水にして、土壌に酸素と水分を供給して根の老化を防止しましょう。また、いもち病、カメムシ等の病害虫防除を適期に行いましょう。

## 気象経過

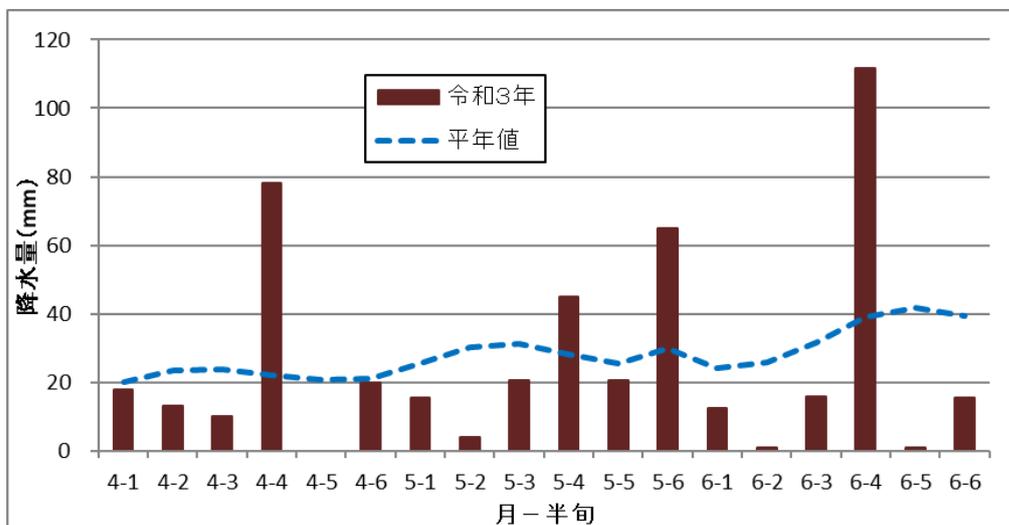
### <気温>

4月第6半旬から5月第1半旬にかけてやや気温が低かったものの、以降は平年より高めに気温が経過しています。



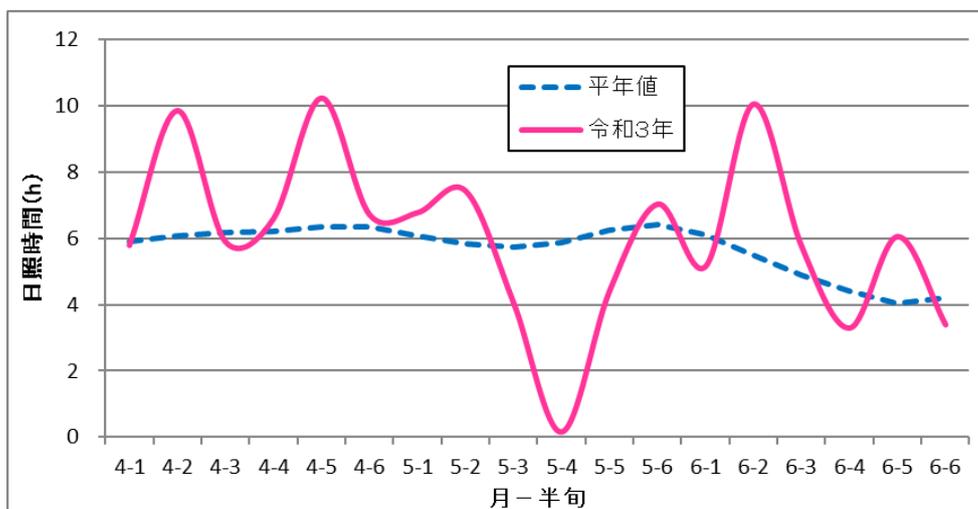
### <降水量>

梅雨入り後の5月後半は降水量が多くなりましたが、6月前半は少なくなりました。6月第4半旬にまとまった量の雨が降りました。4月以降の総降水量は平年並みです。



## <日照時間>

5月第3半旬から第5半旬にかけて曇りや雨の日が多く、日照が少なくなりました。特に第5半旬は全く日照がありませんでした。5月第6半旬以降6月第6半旬までは梅雨の中休みとなり比較的日照時間が多くなっています。



気象庁の3ヶ月予報によると、

7月：期間の前半は曇りや雨の日が多く、後半は晴れの日が多いでしょう。

8月：晴れの日が多いでしょう。

9月：天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

3ヶ月間の平均気温は高い確率50%です。

## 生育の概況

田植え盛期である4月末から5月上旬にかけて気温がやや低く、風の強い日もあり、植え傷みをしたほ場がみられました。また、梅雨入り前後の5月中頃から5月後半にかけて曇りや雨の日が多く、日照が非常に少なかったことから、初期の生育が遅れました。5月末から6月中頃まで好天の日が多く、この期間に遅れを取り戻し、茎数がやや少ないながらも、生育量が確保されました。農業研究所(嬉野)の作況田の生育状況は、平年に比べ茎数がやや少なく、草丈は平年並みとなっています。

### ○農業研究所(嬉野)の作況試験田のデータ

【調査時期：移植+60日後(6月25日)】

品種	年度	移植日 (月.日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)
コシヒカリ	R3	4月26日	62.9	595	10.5	31.0
	平年値(H22~R2)		63.3	614	10.9	31.8

令和3年産水稻生育基準田 調査データ

R03年産水稻

R03.6.30時点

調査場所	移植日	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉色 SPAD	葉齢 L	移植後日数
殿村	4月15日	66.5	486.7	33.9	12.0	76
安濃	4月25日	72.7	359.5	35.1	10.9	66
白山	4月27日	68.0	409.7	35.1	9.6	64

(参考)令和2年産水稻生育基準田 調査データ

R02年産水稻

R02.7.1時点

調査場所	移植日	草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉色 SPAD	葉齢 L	移植後日数
殿村	4月18日	77.7	422.7	34.8	11.5	74
安濃	4月25日	77.5	403.3	33.4	9.8	67
白山	4月30日	71.7	284.6	31.5	9.5	62

## 病害虫の発生状況と対策

### <いもち病>

いもち病発生の適温(25～28℃)となる時期を迎えています。今後、雨の日が続く、高温多湿で感染に好適な条件が揃うと、本田でのいもち病発生が懸念されます。津管内では一部でいもち病の発生が確認されています。

いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)による発生予測において、津管内では5/19と6/16に好適条件が確認されています。感染源(補植用の置き苗など)を減らすとともに出穂期前後の時期を主体に防除を実施しましょう。

いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)

【<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39584007416.htm>】

または「三重県 ブラスタム」で検索を。

### <斑点米カメムシ類>

中山間地域を中心に畦畔等、ほ場周辺での発生が見られます。今後の発生状況に注意しましょう。

- ・カメムシ類の増殖場所となるような畦畔雑草を早めに除去しましょう。
- ・草刈りは出穂10日前までに行いましょう(出穂直前や出穂後の草刈りは、水田への害虫侵入を助長します)。
- ・防除は穂揃期を中心に行い、発生が多い場合は、その1週間後(乳熟期)を目安に追加の防除を実施しましょう。なお、剤によって散布適期が異なるため、注意してください。

### <ウンカ類、コブノメイガ>

通常は、9月中旬以降に収穫する中晩生品種や6月植えでの被害が多く、ウンカでは、トビイロウンカによる収穫前の坪枯れ、コブノメイガでは7月中旬以降の葉の食害が問題となります。しかし本年は、これら害虫の飛来が非常に早く、場合によっては早期栽培の水稻(8月末から9月収穫)にも被害が及ぶ可能性があります。カメムシ防除に用いる薬剤で効果があるので、カメムシ対策と兼ねて防除を実施しましょう。できるだけ薬剤が株元にかかるよう散布してください。

## 今後の栽培管理

### <中干し後の水管理>

- ・5月初旬までに植えた早生品種では幼穂形成期に入っています。中干しを終了し、水を掛け始めましょう。
- ・中干し直後は根が弱っているため、急激に湛水すると根の老化や根腐れによる下葉の枯れ上がりが進むことが懸念されます。浅く入水→自然に引くのを待つ→浅く入水というように間断かん水を行いましょう。
- ・幼穂形成期～出穂・開花期～登熟中期(出穂後25日頃まで)は水が最も必要な時期になります。水を切らさないよう間断かん水を心掛けてください。特に出穂・開花期に強風を受けると茎葉からの蒸散が多くなり、脱水症状により白穂や籾の褐変が発生します。台風や大風が予想されるときは湛水しましょう。
- ・落水を早くしすぎると白未熟粒の発生を助長します。収穫7日前までは落水せず、

足跡水程度の水分を維持しましょう。

### <穂肥>

穂肥は適期に適量を施用しましょう。

**※全量基肥肥料(一発基肥)施用田は原則穂肥は必要ありません。**

ただし、登熟期に高温が予想される場合は、白未熟粒対策として出穂期に窒素成分で 1kg/10a 程度の追肥を行うのが有効です。

**※施肥過多は食味低下の要因になるとともに、倒伏・穂いもちの発生を助長するので注意しましょう。**

○穂肥の施用効果が期待できる稲の姿とは

- ・葉色が薄くて(葉色 4.5 以下)、葉が直立している。(株元スッキリ)
- ・地際の節が短く(第 4 節間が 3cm 程度)、茎が太い。
- ・過剰な分げつが少なく、草丈が 70cm を超えないこと。
- ・病害(特にいもち病、紋枯病)の発生が少ないこと。

○穂肥の施用時期

◇一回目

- ・コシヒカリ 出穂 18～15 日前(幼穂長 1.0～2.0cm)
- ・その他品種 出穂 22～20 日前(幼穂長 0.5cm)

◇二回目

- ・一回目の穂肥施用 7～10 日後

コシヒカリの穂肥施用の目安(資材は例)

葉色(葉色板)		3.5～4.0	4.0～4.5	4.5 以上
草丈		65 cm	70 cm	75 cm 以上
NK 化成7号 (17-0-17)	一回目	10～15kg/10a	7～10kg/10a	やらない
	二回目	10kg/10a	10kg/10a	10kg/10a
IB045 (20-4-5)	一回目	20kg/10a	10kg/10a	やらない

(参考)

○水稻生育予測

【令和3年6月25日現在】

品種	移植期	幼穂形成期の予測日	出穂期の予測日	(平年との差)
コシヒカリ	4月25日	6月28日	7月19日	(2.3日早い)
	5月10日	7月6日	7月27日	(2.5日早い)
みえのゆめ	4月25日	7月9日	7月31日	(3.3日早い)
	5月20日	7月17日	8月8日	(2.6日早い)
三重23号	4月25日	6月22日	7月13日	(1.3日早い)
	5月10日	6月29日	7月20日	(1.6日早い)

※メッシュ農業気象・水稻生育予測システムVer. 2.0による生育予測です。□

田植え後の植え傷み等による生育遅延は考慮されていません。